

新規事業採択時評価結果（平成19年度新規事業箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：木村 昌司

事業の概要

事業名	一般国道125号 栗橋～大利根バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	埼玉県
起終点	起点：埼玉県栗橋町佐間 終点：埼玉県大利根町北大桑	延長	3.9 km		
事業概要	<p>一般国道125号は、千葉県香取市を起点とし、埼玉県熊谷市に至る延長約172kmの幹線道路である。栗橋～大利根バイパスは、一般国道125号の交通混雑の解消と、東北自動車道加須ICへのアクセス強化を目的とした、埼玉県栗橋町佐間から同県大利根町北大桑に至る延長3.9kmの道路である。</p>				
事業の目的、必要性	<p>近接する、一般国道125号加須羽生バイパスの供用が平成19年3月に予定されているため、現道の渋滞がさらに悪化するおそれがある。そのため、加須羽生バイパス供用に併せ、本バイパスについても整備を実施していく必要がある。</p>				
全体事業費	40 億円	計画交通量	17,800台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見
昭和55年から関係市町で促進期成同盟会を発足させ、早期事業化に向けて要望している。

事業採択の前提条件
費用対便益：便益が費用を上回っている

事業評価結果

費用対便益	B/C	5.7	総費用：32億円 （事業費：29億円 維持管理費：3億円）	総便益：184億円 （走行時間短縮便益：138億円 走行費用減少便益：42億円 交通事故減少便益：3億円）	基準年 平成18年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= (交通量 %)	B/C= (交通量 %)		
		事業費変動	B/C= (事業費 %)	B/C= (事業費 %)		
		事業期間変動	B/C= (事業期間 %)	B/C= (事業期間 %)		
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	-	<p>【渋滞損失時間の改善】 バイパス現道部の渋滞損失時間：11.2万人時間/年・km（県内の上位2割以内）</p> <p>【主要渋滞ポイントの解消】 高柳交差点の渋滞状況：最大渋滞長100m（R125加須方向） 通過時間1分（R125加須方面） （第3次渋滞対策プログラムの主要渋滞ポイントに準ずる交差点）</p> <p style="text-align: right;">データは県内平均・全国平均と比較すること</p>		
		事故対策	-			
		歩行空間	-	現道が歩道が片側歩道の区間が多く不十分な歩行空間であるのに対し、両側歩道を設け歩行者へ配慮を行う。		
	社会全体への影響	住民生活	-			
		地域経済	-	バイパス沿道に埼玉県企業局が整備を行った工業団地「豊野台テクノタウン」の主要なアクセスルートとなり、同工業団地の利便性が向上する。		
		災害	-			
環境		-				
	地域社会	-				
事業実施環境			県企業局が、事業用地の一部（約20,000㎡）を確保済みであることに加え、その他の事業用地についても、田圃等が大半で支障物件が少ないため、用地買収を早期に行える状況にある。			

採択の理由

費用便益比が5.7と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。また、当該箇所の現況渋滞損失時間が県内上位にあり、渋滞対策の必要性・効果は高いと判断できる。以上より、本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。